

認知症をわかりたい⁽⁶⁾

ある日の「講座」をのぞいてみた

協力：京都市左京南地域包括支援センター

■認知症は全国に169万人存在し、20年後には倍増するとみられる病気です。認知症の人を見守れる人を増やそうという講座も各地でおこなわれていますね。このページでは、みなさんといっしょに、ある日ある場所でおこなわれた講座をのぞいていきます■



お買い物がかわい

私たちは認知症の方とどう接すればいいのか。その気持ちに一歩でも寄り添うには？ 身近にありそうな場面を、お芝居でご覧いただく「その3」です。

買い物で「マトマト」の巻

〈場面〉農家の人が野菜を売っている露店で。そこへ認知症のおばあちゃんが買い物にきました。

農家の人…いらっしやい、とれたてのお野菜どうですか？ 安くしときます。認知症のおばあちゃん…おいしそうなトマトとええ色のおナスを買いましょ。農家の人…三五〇円です、おおきに。認知症のおばあちゃん(財布を出せず

モタモタ。別のお客さんも来て…) 農家の人…お財布見あたらないの？ 貸して(と、おばあちゃんの袋をとる)。ほら、ありました(と、財布を本人に渡す)。ほな、三五〇円ください。

認知症のおばあちゃん…(ビクビクしながら、お財布から一万円札を出す)

農家の人…いや、そんなお札を出されたらかなわんわ。小銭があるのになんで一万円なんか出さはるの？ もう、私が出してあげる(と、おばあちゃんのお財布を荒っぽくとりあげる)

認知症のおばあちゃん…(呆然としている。野菜のこともすっかり忘れ、その場に置いたまま帰ろうとする)

農家の人…おばあちゃん、おばあちゃん

〈解説〉

認知症では考えることにも障害が起こります。こんな変化、知ってください。

①考える速度が遅くなる…でも、時間をかければ、答えは出せます。せかさなないこと。

②複数のことが上手に処理できない…必要なことをシンプルに表現することが大事です。ていねいと思つて説明が長くなると、よけい混乱することも。

③ささいな変化、普段と違う出来事で混乱しやすくなる…冠婚葬祭での不思議な行動や、家族の入院などで混乱し

ほつと介護

(87)

ん、肝心なものを忘れたらあきません。がな。しっかりとってくださいよ。

* * *

司会者…おばあちゃん、いまのお気持ちを教えてください。

認知症のおばあちゃん…お財布を盗られるかと思いました。怖かつた。

司会者…なぜお札を出したのですか？ 認知症のおばあちゃん…何を出したら

エエのか分からへんの。こないに分からへんようになって…皆さんにご迷惑をおかけするばかりで、情けない。

たことをきっかけに認知症がわかる場合があります。支援してくれる人がいると、日常生活はできます。

④見えないことと具体的なことが結びつきにくい…「節約」といいながらセールスマンから高い商品を買ってしまう

など、観念的なことと現実が結びつかない状態に。目に見えないしくみが理解できなくなるので、自動販売機や改札、銀行のATMでマゴマゴします。

全自動洗濯機や炎の出ない電磁調理器などがうまく使えないこともあります。